

PROGRAM

グスタフ・マーラー Gustav Mahler

交響曲 第3番 二短調

Symphony No.3 in D minor

- 第1楽章 力強く、決然と
Kräftig. Entschieden
- 第2楽章 テンポ・ディ・メヌエット、非常に穏やかに
Tempo di menuetto. Sehr mäßig
- 第3楽章 コモド、スケルツァンド、急がずに
Comodo. Scherzando. Ohne Hast
- 第4楽章 きわめてゆるやかに、神秘的に
Sehr langsam. Misterioso
- 第5楽章 活発な速度で、表出は大胆に
Lustig im Tempo und keck im Ausdruck
- 第6楽章 ゆるやかに、平静に、感情をこめて
Langsam. Ruhevoll. Empfund

指揮・芸術監督：佐渡 裕 Yutaka Sado, Conductor & Artistic Director

メゾ・ソプラノ：ミシェル・デ・ヤング Michelle De Young, Mezzo Soprano

共 演：マーラー・チェンバー・オーケストラ Mahler Chamber Orchestra

女 声 合 唱：オープニング記念第9合唱団
Opening Beethoven 9th Commemorative Chorus, Female Chorus

児 童 合 唱：大阪すみよし少年少女合唱団 Osaka Sumiyoshi Boys&Girls Chorus, Junior Chorus

管 弦 楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

2011 6/17(金)・18(土)・19(日) 3:00PM開演
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション



平成23年度優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業



3分ですぐわかる 今回の聴きどころ

豊かな音楽による大河の中で、自然や人生の意味などを描く大作。

《巨人》と呼ばれる青春賛歌の交響曲第1番、《復活》というタイトルが付けられた死生観の表現である交響曲第2番。作曲家としての存在感を世に示した2曲に続く交響曲第3番は、第1番における自然との対話を継承し、さらには作曲当時ヨーロッパでセンセーションを巻き起こしていたフリードリヒ・ニーチェの思想を反映。その美しくも深い考察を、なんと1時間30分を越える壮大な音楽世界としてまとめあげた大作である(過去にはギネスブックにも「世界でもっとも長大な交響曲」として掲載されていたほど!)。多くの打楽器を含む多彩な4管編成のオーケストラに声楽を加えた野心的なスコアは、第3番にして早くも集大成と言えるような充実ぶりだ。

21世紀の音楽シーンをリードしていく2つのオーケストラが合体!

その名前に「マーラー」をいただくマーラー・チェンバー・オーケストラは、1997年に若手音楽家を中心として結成。メンバーは約50名ほどで、モーツァルトやベートーヴェンの交響曲が似合うサイズ。PACオーケストラとの共演が実現し、大編成を要するマーラーの交響曲を演奏できることは、双方の楽員にとってたいへんに意義深い。互いの音を聴き合いながらミックスさせ、ここでしか生まれない音楽を聴かせてくれるのは、聴衆にとっても大きな幸福だ。マーラーの作品は彼自身が優れた指揮者だったためか、各楽器の可能性を追求し、表情や演奏法の指定も細かい。そこに集中して対応する各奏者の真剣な眼差しは、私たちに「観る楽しみと感動」も提供してくれるはずだ。

オヤマダアツシ(音楽ライター)